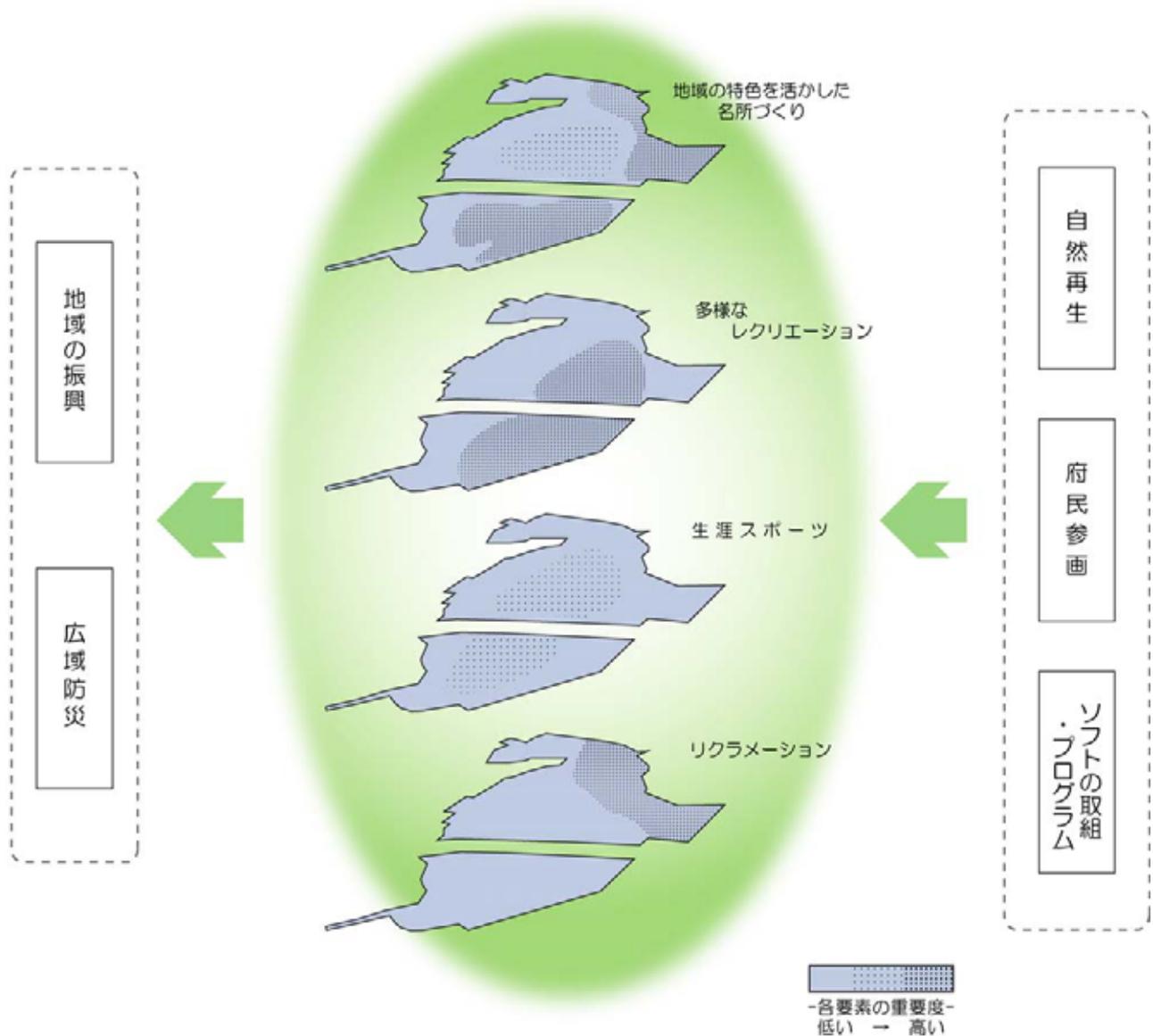


2 公園計画の立案手法について

空間の重ね合わせによる複合的な機能を持った公園計画

公園計画の立案に当たっては、それぞれの空間に多種多様な機能を持たせることができることから、従来型の平面的な配置ではなく、重要な視点である自然再生を土台とした各空間とその機能の重ね合わせを行い、複合的な機能を持った公園となるよう検討することが望まれます。

空間構成の概念図（各空間とその機能の重ね合わせ）

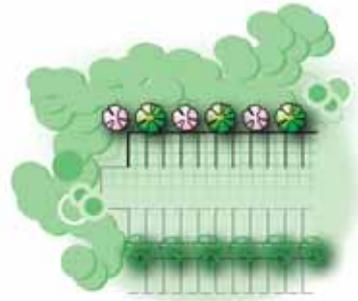


公園全域で自然再生の推進を図る

－ 例 －

○駐 車 場

デザインや構造は土木的なものではなく、緑豊かであると同時に、透水性舗装等とすることにより、地球環境に負荷を与えないものとする。



○多様な森づくり

生物多様性の高い里山的植生を住民参加等によって復元していくエリアとする。



○コートコンプレックス

用途、規模等、多様なニーズに対応するコートコンプレックスエリアでは、高低差処理も緑化によるものとする。



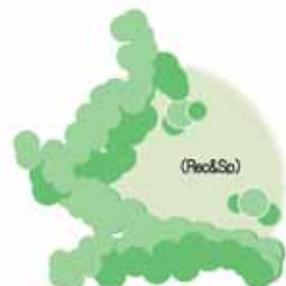
○スポーツ広場

周囲は木立に囲まれた広場空間を創出し、また人工芝の一部導入に際しては、路盤構造は透水性資材を使用する。



○生涯スポーツのエリア

木立で各エリアを分けることにより、様々なニュースポーツなどの利用が展開される。



○水と緑豊かなエリア

木漏れ日の中での休息や語り、またせせらぎのある水辺空間は、学習の森ともなり、健全な環境を提供する場となる。

